

平成 28 年度 事業計画の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

平成 28 年度事業の実施方針

仙台市の震災復興計画が終了し、新たなまちづくりが進む中で、財団設立 30 周年を迎える本年度を大きな節目と捉え、変化する文化芸術面の市民ニーズに的確に対応していく。

- ・年度当初に開催される「第 6 回仙台国際音楽コンクール」の成功に向けて、万全の体制で取り組む。
- ・既存事業の総括や新規事業の開拓を進めるとともに、各事業分野において「30 周年記念事業」を実施する。
- ・指定管理者制度や劇場法などの理念に対応し、各施設での賑わいづくりや、創造型事業のプロセスにおける市民協働・人材育成に精力的に取り組み、「次の 10 年」の基盤を作る。
- ・日常的な文化芸術鑑賞機会や学習機会の充実に加え、新たに「せんだい 3.11 メモリアル交流館」の運営に当たるなど、震災の記憶を後世に残す事業や被災者・地域に寄り添う事業を、引き続き重点的に実施する。
- ・交流人口の拡大に向け、国内外の他地域との連携事業に力を注ぎ、東北を牽引する文化財団としての機能強化を図る。
- ・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金の拡充により事業体系を充実させるとともに、職員の意識、能力の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営を継続する。

平成 28 年度事業の概要（経費／単位千円）

（1）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など、市民自ら行う文化活動に対して、安全・快適で使い易い文化施設の提供をはじめとし、生涯学習の支援、広報活動の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行う。

併せて、当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努める。

ア. 施設の貸出・維持管理運営及び利用者への支援・協力

- ・仙台市青年文化センター 管理運営（352,773）/No. 148
- ・泉文化創造センター管理運営（130,729）/No. 149 ※(株)東北共立、(株)石井ビル管理とのグループ
- ・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（65,933）/No. 98
- ・富沢遺跡保存館 管理運営（79,894）/No. 108
- ・仙台市縄文の森広場 管理運営（41,077）/No. 121

- ・仙台文学館 管理運営 (180,027) /No. 137
- ・せんだいメディアテーク 管理運営 (592,687) /No. 150
- ・せんだい演劇工房 10-BOX 管理運営 (27,235) /No. 81
- ・せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営 (48,786) /No. 82

イ. 市民企画事業への広報支援・助成・協働

- ・支援・助成・協力事業 (20,903) /No. 58

ウ. ボランティア、地域、教育機関等との協働

- ・イズミティ 21 市民協働ロビーイベント (511) /No. 32②
- ・仙台国際音楽コンクールボランティア運営 (3,516) /No. 77
- ・各ミュージアムボランティア運営 /No. 114 ほか
- ・各ミュージアム 教育機関や地域との連携事業 /学校・地域連携促進事業 /No. 88 ほか

エ. 人材育成

- ・(30周年記念事業) LECTURES/レクチュアズ (5,130) /No. 19
- ・(30周年記念事業) 東京芸術大学音楽学部早期教育プロジェクト in 仙台 (1,672) /No. 20
- ・10-BOX 夏の学校 (2,209) /No. 49
- ・舞台スタッフ☆ラボ (702) /No. 52
- ・せんだい短編戯曲賞 (1,715) /No. 51
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営 (27,696) /No. 80

【せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営】

仙台市の東日本大震災メモリアル施設として地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成 28 年 2 月に開館した当施設の管理運営を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。年 4 回程度の企画展やワークショップ等イベントの開催、情報発信事業、年 1 回のフェスティバル等を予定。

【仙台ジュニアオーケストラ運営】

設立から 27 年目を迎える今年度は、秋・春の定期演奏会のほか、3 年に 1 度開催のジュニアオーケストラ・フェスティバル（於新潟市）への参加や、サントリー復興基金により震災後 5 か年に渡ってワークショップを受けてきたウィーンフィルのメンバーと、「サントリー特別公演」（於東京・サントリーホール）に出演する。

(2) 普及、啓発事業

主に文化芸術の鑑賞層を対象とし、芸術や文化全般の魅力を広く普及していくための事業を幅広く展開し、アーティストや制作者を支える観客・サポーターやスポンサーの裾野を広げる。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業、文化情報誌の編集・発行やホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲(1)の市民文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図る。

ア. 鑑賞公演

- ・(30周年記念事業) ユジャ・ワン ピアノリサイタル (6,290) /No. 5
- ・(30周年記念事業) オペラ公演『ラ・ボエーム』(16,287) /No. 7
- ・(30周年記念事業) 劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業 演劇公演『遠野物語～奇ツ怪其の参』(11,281) / No. 9
- ・(30周年記念事業) ライブ文学館スペシャル「向田邦子が描いた家族」(2,940) /No. 15

- ・宝塚歌劇花組仙台公演 (26, 363) /No. 25
- ・仙台クラシックフェスティバル 2016 (79, 941) /No. 26
- ・古典芸能【仙台青葉能、文楽公演、能-BOX 経常事業、市民能楽講座等】 (5, 371) /No. 29、50、53
- ・新春いずみ寄席 (3, 193) /No. 28
- ・れきみん秋祭り (2, 692) /No. 33
- ・ライブ文学館 (2, 437) /No. 45
- ・劇場・音楽堂等活性化事業【小中学校オーケストラ鑑賞会、オーケストラ・スタンダード、こまつ座公演】 (87, 619) /No. 30

イ. 展示事業

- ・歴史民俗資料館 特別展「仙台・昔と今の暮らし」(1, 975) /No. 100
- ・富沢遺跡保存館 特別企画展「先史時代の精神文化」(仮) (2, 198) /No. 110
- ・仙台文学館 特別展「まど・みちおの世界展」(4, 379) /No. 139
- ・歴史民俗資料館 企画展 (1, 774) /No. 101、102
- ・富沢遺跡保存館 企画展 (191) /No. 111～113
- ・縄文の森広場 企画展 (35) /No. 123
- ・仙台文学館 特別展・企画展 (5, 407) /No. 141～143

ウ. 講座・ワークショップ等

- ・各ミュージアムでの講座・ゼミナール・ワークショップ /No. 86、102、113 ほか
- ・ホール見学会 (青年文化センター、イズミティ 21) /No. 31⑥、32③

エ. アウトリーチ

- ・ワークショップ 五感で詩を楽しむ (305) /No. 66
- ・仙台市震災復興のための芸術家派遣事業 (0) /No. 61 ※実行委員会に加わり事務局を運営

オ. 文化芸術情報の提供・広報

- ・広報事業 (5, 304) /No. 70
- ・事業団友の会運営 (3, 395) /NO. 71

■30周年記念事業

【ユジャ・ワン ピアノリサイタル】 9/5

第1回仙台国際音楽コンクールで3位入賞の後目覚ましい活躍を遂げ、現在クラシック界の最先端にいるピアニストのリサイタルを開催する。

【オペラ公演『ラ・ボエーム』】 11/9

本格オペラを手の届きやすい価格で提供する。

【劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業 演劇公演『遠野物語～奇ツ怪 其の参』】 12/3、4

次世代の演出家として高い評価を得ている前川知大の新作舞台作品を、ネットワークを用い全国5館で上演する。

【ライブ文学館スペシャル「向田邦子が描いた家族」】 3月

没後35年を経てなお多くの読者を魅了してやまない向田作品の朗読と、向田和子氏によるトーク。

■経常事業

【宝塚歌劇花組仙台公演】 9/17、18

第1部ミュージカル、第2部レビューの構成で上演する。

【仙台クラシックフェスティバル 2016】 9/30～10/2

仙台の秋の風物詩として定着した「せんくら」の11回目の開催。今回のキーワードは「新しい才能、新しいせんくら」。

(3) 交流、創造、発信事業

仙台圏と他の地域の人材が交流し、共通認識を持って協働していくと共に、長期的継続も視野に入れながら、作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信していく。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育てていくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、市民協働・プロデュース型事業を推進する。

ア. 顕彰制度・コンクール等

- ・第6回仙台国際音楽コンクール運営事業 (320,602) /No. 73~79
- ・(再掲) せんだい短編戯曲賞 /No. 51
- ・ことばの祭典—短歌・俳句・川柳への集い (551) /No. 86
- ・土井晩翠顕彰会の支援 (晩翠わかば賞・晩翠あおば賞) (0) /No. 92

イ. プロデュース公演・企画公演・展示事業

- ・(30周年記念事業) 劇場・音楽堂等活性化事業【小池博史ブリッジプロジェクト・東北タップダンス&アートフェスティバル他】(33,219) /No. 1
- ・(30周年記念事業) 市民参加型創作ミュージカル (仮称)『仙台ねこ』(5,615) /No. 18
- ・(30周年記念事業) 縄文祭復元事業 (2,470) /No. 16, 43
- ・(30周年記念事業) 戯曲賞関連上演 (2,296) /No. 2
- ・(30周年記念事業) ミュージウム・シアター「狩人登場」(1,600) /No. 14、41
- ・(再掲) 仙台クラシックフェスティバル 2016 /No. 26
- ・せんだい・アート・ノード・プロジェクト (30,000) /No. 96
- ・メディアテーク「調査と表明 (1) (2) R&D」(22,699) /No. 93、94

ウ. グッズ製作・出版

- ・(30周年記念事業) RE:プロジェクト記録集出版事業 (3,939) / No. 22
- ・(30周年記念事業)「コミュニティ・アーカイブのつくりかた」出版事業 (1,700) /No. 23
- ・ミュージウムグッズ開発・販売 (1,553) /No. 47

■経常事業

【第6回仙台国際音楽コンクール】5月～6月

13の国と地域から、予備審査で選ばれた81名の若き才能が出場し、競演する。ヴァイオリン部門＝5月21日～6月5日、ピアノ部門＝6月11日～26日。

【せんだい・アート・ノード・プロジェクト】通年

優れた現代アートの持つ発見性、吸引力、発信力を活用しながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開する。前年度の調査を経て臨む当年度は、3か年スパンの1期の初年度として、市内複数個所の「アーティスト・イン・レジデンス」候補地での下地作り等を行う。

■30周年記念事業

【小池博史ブリッジプロジェクト『KENJI』&『風の又三郎』】4月～11月

宮沢賢治の哲学をモチーフとした市民の舞台創作プログラム『KENJI』と、仙台版新演出による『風の又三郎』の公演を、全国4劇場で連携・上演する。

【東北タップダンス&アートフェスティバル】 3月

仙台市出身の世界的タップ・ダンサー熊谷和徳氏を中心とした、仙台発のアートフェスティバル。世界レベルのパフォーマンス公演とワークショップなど。

【市民参加型創作ミュージカル(仮称)『仙台ねこ』】

日立システムズホールを拠点に、本格的な舞台作品作りを目指す事業として、オリジナル・ミュージカルを創作し平成 29 年度に上演する。

当年度は、テーマとクリエイティブスタッフの決定及び参加者公募を行い、夏休み以降に練習を開始。

【RE:プロジェクト 記録集出版事業】

平成 23 年度から 27 年度まで展開し、成果を得た「RE:プロジェクト」の 5 か年分の記録集を出版する。

(4) 総合、その他

文化芸術における分野ごとの調査や研究、ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、財団全体の事業進行管理・調整・評価・内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行う。また、震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続する。

ア. 調査・研究

- ・歴史民俗調査研究・報告 (797) /No. 106
- ・考古学調査研究・報告の刊行 (190) /No. 115
- ・地底の森ミュージアム遺構分析調査 (345) /No. 118

イ. 資料収集・保存

- ・歴史民俗資料収集 (1, 983) /No. 104
- ・文学資料収集・保管 (4, 405) /No. 144
- ・メディアテークライブラリー運営等 (10, 233) /No. 151
- ・地域文化アーカイブ (1, 897) /No. 95②
- ・震災の記録 市民協働アーカイブ事業 (14, 638) /No. 84

ウ. 内部評価・制作管理・職員研修他

- ・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修 /No. 72

公益財団法人仙台市市民文化事業団 平成28年度 事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考 (単位;千円)

(1)芸術文化振興事業

1)30周年記念事業

当事業団の設立30周年を起点に、これまでの成果の総括・発信、外部パートナー人材や外部資金の拡充をテーマに、①事業推進力 ②市民協働力 ③サービス力 を強化していくための30周年事業

①公演事業

1	劇場・音楽堂等活性化事業 (青年文化センター文化庁補助事業) 30周年記念事業分	通年	日立システムズホール仙台	33,219	29,193	入場料等 4,284 市負担金 7,283 文化庁補助 12,626 助成金 5,000
	舞台芸術用ホールを擁し地域の演劇・ダンス文化を支えてきた経験を生かし、劇場の一層の活性化を図るため文化庁の補助を受け実施する事業のうち、都市間連携や事業拡充など周年ならではの以下4事業を実施する。 ①小池博史ブリッジプロジェクト『KENJI』&『風の又三郎』(4月～11月):宮澤賢治生誕120年となる2016年に、自然と人間の関係性を問う賢治の哲学をモチーフとし、市民による舞台作品の創作プログラム『KENJI』に『風の又三郎』の仙台版新演出公演を組み合わせて、加えてシンポジウム等を長野、多摩、茅野、仙台4館で連携して実施する。 ②東北タップダンス&アートフェスティバル(3月):平成27年度に開催した「東北タップ・ダンス&アートフェスティバルイベント」を発展させ、仙台出身の世界的タップ・ダンサー 熊谷和徳氏を中心とした世界レベルのパフォーマンス鑑賞の機会を市民に提供すると共に、東北からの文化発信をしていくイベントとして開催する。 ③次年度演劇プロデュース公演企画(1月～2月):平成20年度より開催し好評を得ている「杜の都の演劇祭」は、演劇ファンの裾野を広げると共に演劇の普及に貢献してきた。その成果を継承しつつ、劇場上演を含む大きな演劇祭へとリニューアルを図るプロセスとして、劇場でのリーディング公演を行う。 ④県域子どもミュージカル招聘公演(2月):地域の文化振興策として大きな効果がある「子どもミュージカルの創作・上演」は、県域内外に複数の事例がある。その成果発表の場として、また東北や県域の子ども達が励ましあい交流できる劇場発のプログラムとして、招聘公演を実施する。当年度はえずこホールのAZ9(アズナイン)を予定。					
2	戯曲賞関連上演	7月	10-BOX・能-BOX	2,296	756	入場料 756 入場者:のべ300人
	せんだい短編戯曲賞の大賞作品や最終候補作品を中心に、様々なジャンルの良質な公演を、地元で活躍する若手制作者と連携して上演する。					
3	トリニティ・アイリッシュ・ダンス	7/6	東京エレクトロンホール宮城	7,179	6,492	入場料 6,492 入場者:1,200人
	10年前の仙台公演で好評を博したアイリッシュダンスの上演。競技ダンスの世界大会優勝者を抱えるカンパニーであるトリニティ・アイリッシュ・ダンスを招聘し、質の高い優れたエンターテインメントを市民に提供する。					
4	東京バレエ団 子どものためのバレエ 『ドン・キホーテの夢』	8/10	イズミティ21	6,797	3,268	入場料 3,268 入場者:1100人
	30周年の節目として、以後子どもを対象とした事業を充実させていくこととし、その鑑賞事業の第一弾として実施する。質の高い家族で楽しめる内容のバレエを低価格(3,500円～1,500円)で提供する。 企画制作:公益財団法人日本舞台芸術振興会チャイコフスキー記念 東京バレエ団 出演:東京バレエ団 演出・振付:ウラジーミル・ワシリーエフ/斎藤友佳理					
5	ユジャ・ワン ピアノリサイタル	9/5	日立システムズホール仙台	6,290	3,140	入場料 3,140 入場者:650人
	第1回仙台国際音楽コンクールに14歳で出場、3位入賞後、目覚ましい活躍をとげ、世界各地でセンセーションを巻き起こしているピアニスト、ユジャ・ワン。完璧なコントロールと卓越したテクニックに裏打ちされた叙情豊かな音色、深い音楽性、華やかな存在感に世界中が魅了されている。クラシック音楽界の最先端にいるアーティストの演奏に触れ、進化し続けるクラシック音楽の新たな魅力を発見する機会としたい。					
6	イズミティ21小ホール スタインウェイピアノお披露目コンサート	10月以降	イズミティ21	1,000	0	入場者:400人
	平成28年10月までに日立システムズホール仙台からスタインウェイピアノ1台が移管される。このことを周知し、小ホールの新しい魅力としてアピールするために、同ピアノを使用したコンサートを実施する。ピアノソロ、連弾、他の楽器や声楽等とのアンサンブルなど多様なプログラムで構成するよう工夫し、小ホールでスタインウェイピアノを使用したクラシック系コンサートの実施例として提案する。事前申込制または整理券制にて入場無料で実施。					
7	オペラ『ラ・ボエーム』	11/9	イズミティ21	16,287	7,710	入場料 7,710 入場者:1,000人
	馴染み深い名曲の揃った人気の演目「ラ・ボエーム」を字幕付きで上演し、クオリティの高い本格オペラを市民に提供する。主要キャストのうち4名はイタリアのリーヴァ・デル・ガルダでのオーディションで決定。出演者の一部に地元人材を使うことや作品理解を深める事前セミナーの開催などを通して、地域全体で上演を盛り上げる。 芸術監督:甚目裕夫、演出:三浦安浩、指揮:ロレンツォ・タッツィエリ					
8	チェコ少年合唱団「ボニ・プエリ」	11/27	イズミティ21	3,528	2,782	入場料 2,782 入場者:1,000人
	チェコ少年合唱団「ボニ・プエリ」は23歳までの青少年が所属し、テノール、アルト、ソプラノ、バスの4声で構成され、通常の少年合唱団とは違い厚みのある広がり、豊かな音楽を創りだしている。7回目の来日となるが、仙台公演では、プログラムの一部に仙台の子ども合唱団との合同ステージを設けることで、子どもたちの育成と国際交流を図り、また次世代の鑑賞層の拡大を目指す。					

9	劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業 演劇公演『遠野物語～奇ツ怪 其の参』	12/3・4	イズミティ21	11,281	8,061	入場料 5,309 その他 10 助成金 2,742
次世代の演出家として高い評価を得ている前川知大の舞台を、ネットワークを用い全国各地の劇場で上演する企画の仙台公演。すぐれた演劇作品の鑑賞機会を幅広い年代層に提供する。 出演：仲村トオル 瀬戸康史 山内圭哉 安井順平 浜田信也 池谷のぶえ 銀粉蝶 ほか 原作：柳田國男 構成・台本・演出：前川知大 ネットワーク館：世田谷パブリックシアター、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、兵庫県立芸術文化センター、岩手県民会館						
10	日本名曲アルバム&クリスマスコンサート	12/17	イズミティ21	5,811	3,394	入場料 3,394
幅広い年代層への鑑賞機会提供の一つとして、童謡や馴染みの深い歌謡曲を中心にしたプログラムにより、BS-TBSで放映されている同番組の舞台版を新演出で実施する。仙台において、童謡・唱歌といったジャンルでの市民活動は盛んであるが、その活動の後押しの一助となるほか、震災復興住宅に暮らす被災者の招待、また若者層へのアプローチ等を行うことで、今後の活動への参加などが期待できる。 出演 ソプラノ：藤田美奈子 他						
11	スーパージャズコンサート 古野光昭フルノーツ&渡辺香津美・山下洋輔	2/28	イズミティ21	6,043	4,172	入場料 4,172
ジャズ界をリードするミュージシャンたちの夢の共演。それぞれ第一線で活動をしているジャズミュージシャンが集まり、刺激的で自由な演奏を提供する。イベントとして「はじめてのジャズ講座」実施も予定。 出演：フルノーツ(古野光昭/ベース・川嶋哲郎/サクソフ・大坂昌彦/ドラムス) スペシャルゲスト：渡辺香津美(ギター)・山下洋輔(ピアノ)						

②ミュージアム活性化事業

12	文学と演劇のコラボレーション	平成28年	仙台文学館	1,900	0	
仙台文学館の常設展示の柱である土井晩翠と島崎藤村を、より積極的に紹介する試みとして、二人の生涯を短い演劇に仕立て、展示室内で上演する。来館者が立体的に二人を感じ、興味関心を深める手助けとするとともに、この手法を通じて文学と演劇の新しい魅力や楽しみ方を提案する。						
13	ミュージアム・シアター「狩人登場」	5月～2月	富沢遺跡保存館	800	0	
市内を中心に演劇等の表現活動をする身体表現ユニット「短距離男道ミサイル」の協力を得て先史時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。ここではこれまでの活動をより多面的に展開していくための衣装等の制作を行う。						
14	森を育てる2016	5月～10月	富沢遺跡保存館	998	18	参加料 18
富沢遺跡保存館の野外展示「氷河期の森」は、環境復元(展示)と環境回復(保全)を核として館の普及啓発等に活用されてきた。これに、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を加え、環境活動を将来にわたってどう行っていくか、参加者が主体的・計画的に考える基礎づくりの活動を行う。持続可能な地域づくりを担う人材育成においては、多様性、相互性、有限性、公平性、連帯性、責任性などを学ぶ機会を提供し、あわせて野外展示である復元森の生育を促すものとする。						
15	ライブ文学館スペシャル 「向田邦子が描いた家族」	平成29年3月	日立システムズホール仙台	2,946	1,834	入場料 1,834
没後35年経った今も、多くの読者を魅了してやまない向田邦子。実妹の向田和子氏を迎えてのトークと、元NHKアナウンサー山根基世氏の向田作品の朗読の二部構成。30周年スペシャル版としての演出を加え実施。						
16	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,270		
縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民に公開する。前年度に引き続き、ここではこれまで復元製作してきた楽器を演奏する成果公開イベントをより大規模に行う。全国に発信する当館の独自事業と位置づける。						
17	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	1,000		
縄文文化をより身近にとらえてもらえるよう、土器を3D計測により型取りし、それを活用してレプリカを製作するなど、当館独自のメニューを開発する。 平成29年度はその成果を活用したイベントを30周年記念事業として実施する。						

③育成・普及事業

18	市民参加型創作ミュージカル『仙台ねこ(仮)』	参加者公募：5～6月／公演：平成29年8月	日立システムズホール仙台 他	6,130	640	参加料 640
市民が参加し体験する舞台芸術創造事業としてミュージカルを創作し、平成29年8月に上演する。出演者、ボランティアスタッフを公募するほか、エピソードを募集し脚本に取り入れるなど住民参加の入口を複数設けるとともに、質の高い舞台作品創造を目指す。平成28年度はテーマとクリエイティブスタッフの決定および参加者100名程度の公募を行い、夏休み明けから練習を開始する。 プロデュース：廣瀬純 脚本・演出：梶賀千鶴子						

19	LECTURES/レクチュアズ	10月～3月	メディアテーク	5,130	0	
市内各所で市民の誰もが参加できるアートに関するレクチュア(鷲田清一館長による集中講座を含む)を開催する。本事業の企画運営を地域のアート関連団体と連携しながら進めることにより、現代アートについての市民の理解の広がりや人材の育成を目指す。仙台における芸術文化の魅力のさらなる向上を目指し、せんだいメディアテークを核に現代アートの振興に取り組む。						
20	東京藝術大学音楽学部 早期教育プロジェクトin仙台	2月、3月	日立システムズホール仙台	1,672	0	
東京藝術大学音楽学部の教員が仙台に赴き、地域で音楽に取り組む子どもたちを対象に、公開型レッスン等を行う。(受講料無料・事前審査あり、見学・聴講自由) 音楽家を志す子どもたちが相互に刺激し学び合う環境づくりを行うとともに、聴講する指導者の音楽指導力の強化に寄与する。また、市民が一流の演奏技術を身近に感じることで音楽鑑賞力を深める機会とする。 音楽教育の振興を目的に、東京藝術大学、仙台市との共催により実施。平成28年度は、ピアノ部門、ヴァイオリン部門などを開催予定。						
21	舞台芸術見本市(芸術家派遣事業の成果等)	3月	10-BOX	1,200	0	
10-BOXの機能を活用して作り、外部で発表された舞台作品のなかで、特に優れたものを10-BOX仕様にリメイクし、多くの市民がまとめて鑑賞できる機会を提供する。						
22	RE:プロジェクト 記録集出版事業	通年	—	3,939	250	刊行物販売 250
創造都市推進事業「RE:プロジェクト」(平成23～27年度)の、これまでの成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)をまとめて掲載するとともに、外部による評価の視点も入れながら記録集を出版する。また、出版記念イベントとしてこれまでの記録展のパネルの再展示や住民を招いてのトークイベントを行う。						
23	『コミュニティ・アーカイブのつくりかた』出版 事業	4月～2月	メディアテーク	1,700	0	
震災後実施してきた市民協働アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」は、地域課題を様々な主体の参加を得ながら市民一人ひとりの目線でアーカイブする独自の取り組みとして、多くの共感と高い評価を得てきた。この活動記録をまとめ、事業を通じて得られたノウハウや成果、課題を共有し、次の世代に継承するために書籍を出版する。						
④その他						
24	周年共通経費	通年	—	4,750	0	
周年事業をまとめて広報するための共通パンフレットの作成や、季刊誌の増ページ、設立以来の事業アーカイブの構築・整備等にかかる経費と、臨時的人件費など。来年度のタイ国立舞踊団招聘調査費(300千円)等、次年度調査業務を含む。						

2) 経常事業

① 公演事業

25	宝塚歌劇花組全国ツアー仙台公演	9/17・18	イズミティ21	26,363	39,363	入場料 38,569 広告料 350 その他 444
仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。2日間・4ステージで第1部ミュージカル、第2部レビューを上演する。						
26	仙台クラシックフェスティバル2016	9/30～10/2	日立システムズホール仙台 他	79,941	76,741	市負担金 23,000 入場料等 44,741 協賛金 9,000
平成18年度に事業団創立20周年記念事業として創設し、11回目を迎える今回は、「新しい才能、新しいせんくら」をキーワードとして、新しい魅力と若い力にスポットをあてて更なる充実を目指す。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で87の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を推奨する。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサート、病院などに出演者が出向き演奏する「出張せんくら」を設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。						
27	もりのみやこのふれあいコンサート	12/7	イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場者数が増えている。また、平成26年度から会場をイズミティ21大ホールとし、より多くの車椅子の方の受入れを可能としている。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。						
28	新春いずみ寄席	1/9	イズミティ21	3,193	2,888	入場料 2,888
新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて落語寄席を実施する。13時～、16時～の1日2回公演を行う。						

29	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	2,268	0	
放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。継続実施している仙台青葉能、文楽公演(負担金各500千円)と小山実稚恵「音の旅」(負担金無し、年2回)、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai~Tap the FUTURE~の通年ワークショップ(負担金なし)に加え、当年度は仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会(負担金500千円)、「レクイエム・プロジェクト仙台2016」(レクイエム・プロジェクト実行委員会 助成金のみ)、「東芝グランドコンサート2017」(河北新報社 負担金無し)、「名曲の花束 ソフィア・ゾリステン&リヤ・ペトロヴァ」(東日本放送 負担金無し)他を共催する。						
②ホール運営活性化事業						
それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。						
30	劇場・音楽堂等活性化事業 (青年文化センター文化庁補助事業) 経常実施分	通年	日立システムズホール仙台	87,619	86,471	入場料等 10,980 市負担金 38,117 文化庁補助 37,374
クラシック専用ホールを擁し地域の音楽文化を支えてきた日立システムズホール仙台からの発信事業。文化庁の補助を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。主な内容は以下の通り。 ① 青少年のためのオーケストラ鑑賞会 (7月、10月):市内小中学校約220校をホールに招いて開催する本格的なオーケストラ・コンサートの鑑賞会(全14回)。 ② 《名曲のちから》「オーケストラ・スタンダード 全4回」 (11月～3月):平成23年度からの継続企画。クラシック音楽の鑑賞中級者に向け、オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。当年度は、主催公演での来場者アンケートによる要望を折り込みながら、シアターホールの特色あるプログラムで開催する。 ③ おとなのためのクラシック教室&入門コンサート (1月):「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」のおとな版。クラシック音楽初心者に向けての、平日昼間開催・解説付きの本格的なオーケストラ・コンサート。 ④ こまつ座「紙屋町さくらホテル」 (8月):「井上ひさし作品」という現代演劇のスタンダードを、井上戯曲の継承者であるこまつ座により上演することで、井上文学と演劇との関係性を改めて紹介し、作家ゆかりの地、仙台に伝えていくことを目的として開催。仙台初上演。						
31	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	5,725	408	参加費等 158 コピー料収入 250
ホール施設等の利用促進に向けての活性化事業を次のとおり行う。 ① 「こどもの夢ひろば“ボレロ”」 (7月):仙台市出身の著名ピアニストに小山実稚恵氏による企画とタイアップし、総合的な施設紹介も目的として実施する事業。こども向けのコンサートの他、様々な体験型コンテンツもある内容で、全館を使って実施。 ② パフォーマンス広場活用プロジェクト (7月):「こどもの夢ひろば“ボレロ”」の開催に合わせることも候補とし、当館の特徴的施設である「パフォーマンス広場」を利用している(していた)市民による公演や参加型事業などの、ジャンル複合イベントを実施する。 ③ 公募写真プロジェクト :写真技法の講座、撮影から設営会までのプロジェクト。参加者を公募し、当施設や催事を撮影、展示する。 ④ インド舞踊公演 (9月):インド政府と共催。インドの優れた舞踊、文化を紹介することで、異文化交流、理解を深め、前年に続く震災復興支援の一助とする。 ⑤ ガス局共催料理教室 (年4回):市ガス局と共催し、時節に合わせて年4回の料理教室を開催する。昨年度に引き続き、対象を拡大する企画(例:親子、健康志向者対象、海外の料理など)を盛り込む。 ⑥ ホール見学会 :施設の特性を活かしたホールの見学会を継続して実施する。 ⑦ ギャラリー事業 :3階ギャラリーと1階ロビーを活用した展示事業。 ⑧ 地域連携事業 :旭丘小学校の課外授業である「旭ヶ丘わんぱく森がっこ」を中心に、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を深める。 ⑨ 次年度事業等調査事業 :次年度事業に向けた調査を実施する。 ⑩ コピーサービス事業 :施設利用者用のサービスを継続して実施する。						
⑩は収益事業						
32	イズミティ21 活性化事業	通年	イズミティ21	923	10	販売手数料 10
指定管理者応募の提案事項を中心に次の事業を行う。 ① 泉中央地区プレイガイド事業(通年) :利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、イズミティ21を会場に実施される催し物の入場券を販売する。また、仙台市市民文化事業団主催のチケットも併せて取り扱い、仙台国際音楽コンクール及び仙台クラシックフェスティバルのチケットについては専用端末を用いて販売する。また、入場無料の整理券配布についても積極的に取り扱う。 ② 市民協働ロビーイベント(年3回) :施設のカラーづくりとして普段直接観る機会の少ないジャンルを取り上げ、広く市民に紹介し、会館全体の活性化を図る。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施する。また、イズミティ21のホールを利用してイベントを実施する団体のプレイイベント(事前PRイベント)として、施設利用者への広報支援策としても活用する。 ③ ホール見学会 (8/2、1日2回公演):普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う参加型の見学会を実施する。小学生を対象にして夏休みに開催し、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とする。 ④ ピアノ弾き込みボランティア(年3回程度) :ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。 ⑤ 市民ギャラリー・エントランスロビー展示(ギャラリー/1回1週間程度、ロビー/通年) :泉区の拠点館として、泉の文化・自然等を紹介する写真展、パネル展を泉区まちづくり推進課等と関連のある地域の団体との協働で実施する。また、館内の有料スペース以外の活性化のために、エントランスロビー等において時節に合わせた小規模な展示等を併せて実施する。						
①は収益事業						

③ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。

33	れきみん秋祭り	10/22、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,778	50	刊行物販売 50
	歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の11回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催。					参加者:7,000人
34	猿舞座のさるまわし	6/12	榴岡公園 歴史民俗資料館	30	0	
	榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の8回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です。					参加者:800人
35	朗読公演 「つつみのおひなこ・仙台空襲物語」	8/6	歴史民俗資料館	30	0	
	朗読「リラの会」による「つつみのおひなこ・仙台空襲物語」の4回目の公演。終戦記念日に近い日程で常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝える。					参加者:50人
36	朗読公演 「あの日、あの時、私の記憶」	3/4	歴史民俗資料館	30	0	
	朗読「リラの会」により、2011年3月11日の体験記『東日本大震災の体験文集Ⅱ』をもとに構成された朗読作品を、効果的な音響と照明のもとで上演する。					参加者:50人
37	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	1,000	0	
	①環境整備事業:子育て世代の親子連れや児童、生徒の利用促進に向け、館内の様々な空間を効果的かつ魅力的に活用できるような「場」づくりを行う。図書館と連携を図りながら、親子で遊べる安全な設備を考案し設置する。 ②メディアによる2階映像音響ライブラリー活性化事業:2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre (我がライブラリー&シアター)」という意識をもつ利用者を育てる。年4回開催(最終回はグランドチャンピオン大会、その後に上映会を開催)。					
38	活版印刷ワークショップ事業	通年	メディアテーク	100	0	
	メディアテークに寄贈された活版印刷機を使用可能な状態で保存し、デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承する人材を育てると共に、貴重な活版の道具類のミニ展示やワークショップを開催し、広く普及を図る。					
39	体験教室「親子でつくろう古代米」	5月～11月	富沢遺跡保存館他	570	150	古代米販売 120 参加料 30
	富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行う。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会とする。また、近隣の小学校や地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指す。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行う。					
40	ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2016」	5月～3月	富沢遺跡保存館他	300	0	
	都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれているが、より多くの市民に両館の野外展示について楽しみながら知っていただくことを目的として、その魅力を1枚の写真で表現してもらい、コンテストを行う。作品は広く一般から募集する。					
41	ミュージアム・シアター「狩人登場」	5月～2月	富沢遺跡保存館	800	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする身体表現ユニット「短距離男道ミサイル」の協力を得て先史時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。30周年事業として拡大実施するが、ここでは経常実施分を掲載。					
42	冬キラ☆今日の主役は氷河期の森	12月	富沢遺跡保存館	540	0	
	地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とする。当年度も学生へ参画を呼びかけ、「氷河期の森」の活用を図る。					
43	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,200	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元・創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民に公開する。前年度に引き続き、縄文の音や民俗事例に関する調査を行うとともに、これまで復元製作してきた楽器を演奏する成果公開イベントを行う。音楽以外のまつり要素を調査するために、各地の先進事例調査も進めている。全国に発信する当館の独自事業と位置づける。30周年事業として拡大実施するが、ここでは経常実施分を掲載。					

44	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	200	0	
平成27年度は、「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、土器片型に似せたクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを外部講師を招いて実施した。 平成28年度は、縄文の森広場、または地域の小学校や市民センターを会場とし、より身近に縄文文化をとらえてもらえるような2～3時間程度のイベントを実施する。30周年事業として拡大実施するが、ここでは経常実施分を掲載。						
45	ライブ文学館	①平成28年秋 ②平成29年冬	①せんだいメディアテーク ②宮城野区文化センター	2,437	664	①入場料 255 ②入場料 409
ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成する催し。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成する。 ①「小さないのちを考える～映画上映会&トークライブ」:秋の特別展「猫と文学」の連動イベントとして開催。捨て猫保護活動のドキュメンタリー映画の上映と、関係者によるトーク、また猫をテーマにした文学作品のリーディングの二部構成。 ②「方言を味わう」:企画展「井上ひさし資料特集展」の連動イベントとして開催。方言をテーマにした作品の朗読と、方言の持つ重要性についてのトークの二部構成。						
46	仙台文学館まつり	8月	仙台文学館	220	20	その他 20
平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親んでもらう企画とする。夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫をする。						
47	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,048	1,814	刊行物販売 1,394 その他 420
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ①富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出90千円、収入134千円) ②縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによる手作りの勾玉など、商品の製作と開発。(支出200千円、収入200千円) ③仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、秋の特別展に合せた関連グッズを販売し来館者のニーズに応える。(支出251千円、収入180千円) ④メディアテークグッズ:平成25年度、平成26年度、平成27年度の3年にわたりカネイリと共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売を行う。(支出200千円、収入800千円) ⑤歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出307千円、収入500千円)						
収益事業 *収支は損益ベース						

④劇都仙台2016事業

都市文化を支える芸術として演劇の総合性と公益性に着目し、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施する。
①クリエイターの育成 ②活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ③教育や福祉など他ジャンルとの連携 ④良質な公演の機会の拡大 ⑤情報交流や協働 ⑥関連調査や研究など

48	10-BOX鑑賞型プロジェクト	通年	演劇工房10-BOX他	4,970	3,970	市補助金 3,670 入場料 300
①戯曲賞大賞受賞作品リーディング公演:優れた戯曲や良質な作品を広く市民に対して鑑賞の機会を提供するため、せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演。 ②杜の都の演劇祭:市内の劇場や飲食店等の劇場空間を活用して主催・共催等の演劇公演を行い、鑑賞層の拡大(創客)を図る。						
49	10-BOX夏の学校	7月～8月	演劇工房10-BOX メディアテーク	2,209	1,209	市補助金 1,071 受講料 138
夏期学校のスタイルをとる人材育成プログラム。演劇の手法を用いて、創造・思考・表現を磨き、視野を広げる集中講座。広く一般を対象に、参加者が自分自身の中に潜む創造力と思考力を発見できることを狙いとした、造形、身体表現のワークショップを行う。						
50	市民能楽講座	9/22	能-BOX 日立システムズホール仙台	4,066	4,066	市負担金 2,350 入場料 1,716
「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。今回は、観世流の能公演(9/22)を日立システムズホール仙台(青年文化センター)シアターホールで、講座も併せて実施。						
51	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX 他	1,715	1,715	市補助金 1,715
演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第4回せんだい短編戯曲賞」を開催。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞を選考する。最終候補作品(10作品程度)を冊子化し、併せて次年度の募集を行う。						
52	舞台スタッフ☆ラボ	1月～2月	演劇工房10-BOX他	702	702	市補助金 537 受講料 165
舞台技術や演出効果の技術及び技能者を養成・育成することを目的に、初心者も参加できる内容で、演劇など舞台公演のための施設、またはそれに適した場で実践的な講座やワークショップを行う。						
対象者:50人						

53	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	731	731	市補助金 656 受講料 75
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中逐晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓も図ってゆく。					対象者:70人
54	共通経費(事業間連携活動等)	通年	演劇工房10-BOX他	1,330	252	市補助金 101 刊行物販売 151
	ホームページの更新をはじめとする劇都仙台事業や宝塚公演事業、有償事業等の共通業務、また教育や福祉など他の専門組織との協働事業やせんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売を行う。					
55	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BBOX他	350	150	県負担金 150
	教育や福祉現場での課題を、演劇へのアクセスが少ない潜在的なニーズととらえ、演劇のコミュニケーション能力を育む機能を応用したワークショップを行う。現場に必要な指導者(ファシリテーター)の育成やプログラムの研究開発、また課題を解決するためのワークショップも実施する。さらに教育現場での演劇の次代の担い手である高校演劇部に重点支援するため、高等学校演劇協議会と共催し、地区大会を開催する。					対象者:100人
56	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ、専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者の指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。					対象者:70人
57	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が企画した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行う。					対象者:10人
⑤市民文化事業への支援事業						
58	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,903	20,024	市補助金 20,024
	市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。「助成事業」は助成審査会による資金援助。「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。					支援:約250件 助成:約160件 協力:約20件
59	名義後援	通年	—	0	0	
	団体・個人が行う芸術文化事業に対し、名義後援を行う。					
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
60	地下鉄駅コンサート	9/24・25 10/1・2	地下鉄駅構内	918	918	市負担金 918
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。					
⑦育成・普及事業						
主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供する。						
61	芸術家派遣事業	5月～2月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市芸術家派遣事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度実績として170箇所、70事業を派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は2,000万円程度を見込んでいる。またこの事業の効果を一層高めるために、仙台市の負担金により、アーティスト及びコーディネーターを対象とした研修事業や他都市事例の調査などを予定。					
62	ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー レッスン	7/19～23	イズミティ21	2,570	1,800	受講料1,800
	仙台には多くのバレエ教室があり、より高度なレッスンのニーズがある。若手の育成を図るため、世界の最高峰に位置するロシアのバレエ学校を招請し、地元の教室に通う生徒を対象に、5日間にわたる特別集中レッスンを行う。					受講者:60人
63	こんなに素敵なクラシック!Vol.2～フルートに魅せられて～	9/10・11	日立システムズホール仙台	990	487	入場料等 487
	交流ホールを会場とした人材育成事業。「日伊交流150年」を記念してヴェネツィアから来日する演奏家を招き、管楽器の中でも人気の高いフルートのワークショップとコンサートを行う。吹奏楽が盛んな仙台において、学生や在仙の若手演奏等を対象としたワークショップを行うことで、地元の吹奏楽全体のレベルアップも視野に入れて実施する。フルート演奏及び講師:フェデリカ・ロッチ(ヴェネツィア/ベネデット・マルチェッロ国立音楽院教授)					入場者等のべ:200人

64	地域特有の文化を活用した市民交流事業	10月～2月	日立システムズホール仙台	300	0	
<p>参加者ひとりひとりの出番づくり・地縁づくりと、地域の魅力発信を目的として、仙台・宮城に受け継がれてきた文化的遺産を題材とし、参加者相互の交流をはかる。企画の中心となる有識者(作家や実演家)を1名たて、ひとつの題材で3回の実施を予定。</p>						参加者:のべ100人
65	アーティストマネジメント事業	通年	各学校・地域	1,200	1,200	その他 1,200
<p>子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせて、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行う。当年度は従来の近隣市町村の学校・公共施設・市内商店街等での実施を予定。</p>						
66	ワークショップ・五感を詩を楽しむ	通年	各学校・地域	305	0	
<p>小学校の児童生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。28年度は春の特別展「まど・みちおのうちゅう」の見学と、まどみちおの詩を味わい楽しむワークショップや体験活動を行う。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とする。</p>						

⑧出版及び作品収集事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。

67	仙台文学館刊行物販売事業	通年	—	0	60	刊行物販売 60
<p>『仙台北のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録として出版したものを、継続して販売。</p>						
68	『仙台戯曲賞シリーズ』販売	通年	—	0	43	刊行物販売 43
<p>「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,000円(税別)。販売作品『開光る』『ドミノ』『ミチユキ→キサラギ』『はだか道』。</p>						
69	市民文化事業団ブックレット『文化芸術の社会再生力』販売	通年	—	2	14	刊行物販売 14
<p>事業団創立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、平成20年度末に出版したブックレットを継続販売する。</p>						

⑨広報事業等

70	広報事業	通年	—	5,304	5,070	市補助金 5,070
<p>文化情報誌『季刊まちりょく』の発行(年4回)を継続する。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介していく。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス想定件数:年70,000件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行う。</p>						
71	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,395	1,500	友の会会費 1,500
<p>市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月刊情報誌『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等。年会費1,000円。</p>						会員:約1,500人
72	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	5,429	0	
<p>事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。</p>						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

第6回仙台国際音楽コンクールを開催する。

73	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	18,125	18,125	市負担金 18,125
<p>コンクール事務局の運営を行う。</p>						
74	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	10,117	10,117	市負担金 10,117
<p>組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。</p>						
75	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	224,251	224,251	市負担金 178,506 事業収入 45,745
<p>第6回コンクール・ヴァイオリン部門を5月21日から6月5日に開催。ピアノ部門を6月11日から6月26日に開催する。31の国と地域から370名の申込があり、DVD等による予備審査を通過したヴァイオリン部門38名、ピアノ部門41名が参加予定。</p>						

76	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	49,043	49,043	市負担金 49,043
コンクール開催に係る広報活動、印刷物作成、開催期間の会場装飾等を行う。 コンクール開催期間中は、インターネットで世界中に動画配信を行う。						
77	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	3,516	3,516	市負担金 3,419 入場料等 97
第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティアリーダーミーティングの開催 ②会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「Map for The SIMC Contestants」(Web版及び印刷物)発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:コンクール期間中の出場者に対する通訳サポート、コンクール関連事業等の通訳サポート、交流サロンの運営等 ⑤ホームステイ受入:コンクール出場終了後の出場者を対象にしたホームステイの受入れ ⑥ボランティアプロジェクトチーム:コンクール関連事業等出場者出演コンサートの運営サポート						
78	第6回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	9,605	9,605	市負担金 9,173 その他 432
第6回コンクール優勝者の副賞として、国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作及び販売を行う。また、平成29年度に実施する副賞の準備を行う。第5回優勝者についても、副賞提供期間である平成25年12月まで、国内オーケストラとの共演やリサイタルの機会を提供する。						
79	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	5,945	5,945	市負担金 5,945
・コンクール開催期間中に、審査委員によるマスタークラスを開催する。 ・コンクール開催中に、予選・セミファイナルを通過しなかった出場者による「チャレンジャーズ・ライブ」及び「学校訪問ミニ・コンサート」を開催する。 ・地元の若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、街かどコンサートを開催する。						

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

80	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台 他	27,696	27,696	市負担金 17,148 受講料・入場料等 10,548
・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・「定期演奏会」を10月に開催し、続けてサントリー復興基金による「サントリーホール特別公演」に出演する。 ・8月に新潟市で開催される「ジュニアオーケストラ・フェスティバル」に参加する。 ・3月に「スプリングコンサート」を開催する。						
						団員定員:122人

(4)演劇系練習施設運営事業

81	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX (能-BOX)	27,235	27,235	市補助金 19,382 利用料等 7,853
「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。						
						収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設管理運営事業

82	せんだい3.11メモリアル交流館管理運営	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	48,786	48,786	市受託料 48,786
地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。仙台市の東日本大震災メモリアル施設として位置づけられた当施設において、職員常駐の枠組みにより、荒井地区をはじめ様々な住民・市民の交流の場としての親しみやすい運営に努めるとともに、以下の事業を幅広く展開する。加えて、常設展を含めた館全体の管理運営業務についても一定の役割を担う。 ①企画展:年4回予定 ②活動室でのワークショップ・セミナー・イベント:語り部育成を含む ③調査・記述系の事業:情報紙・ホームページの編集・発行等を含む ④収穫祭的なフェスティバル:大規模アート制作・展示等を含む/秋1回						

(6)芸術文化受託事業

(単位:千円)

83	市制施行127周年記念コンサート	7/4	イズミティ21	4,320	4,320	市受託料 4,320
仙台市の市制施行記念式典の一環として開催される仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第3位の富井ちえりさんを迎える。						
84	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	14,638	14,638	市受託料 14,638
大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用する。						

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

①仙台文学館普及啓発事業

85	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	1,212	751	市補助金 443 販売手数料 308
<p>特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。</p> <p>①特別展「まど・みちおのうちゅう」関連:まど・みちおの故郷、山口県周南市より、まど・みちおと交流の深かった有田純一氏(周南市美術博物館館長)を迎えての講演会や、佐藤通雅氏(歌人・評論家)によるギャラリートーク、伊藤敏恵氏(NHKアナウンサー)による、まど・みちお作品の朗読とトーク、今井邦男氏(音楽家)・「六月の歌声」による、まど・みちお作品の合唱などを開催する。</p> <p>②「こども文学館 えほんのひろば」関連:市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、手作り教室を開催する。</p> <p>③特別展「猫と文学(仮)」関連:関係者による講演会、猫が描かれた作品の朗読イベントなどを開催する。</p> <p>④企画展「井上ひさし資料特集展Vol.6」関連:展示室内でのリーディングイベント、読書会などを実施する。</p>						
86	ことばの祭典— 短歌・俳句・川柳への誘い	6/19	仙台文学館	551	551	市補助金 551
短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ。						
87	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,169	2,630	受講料 2,630
<p>文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図る。</p> <p>①小池光短歌講座:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回の開催を予定。</p> <p>②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみかくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催する。</p> <p>③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリリーディングなど、文学作品の朗読イベント。</p> <p>④文芸講演会:活躍中の作家による講演会や対談。仙台ゆかりの作家をはじめ、全国規模で活躍する作家による講演なども開催する。</p>						
88	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	55	55	市補助金 55
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを作成する。						
89	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。						
90	情報誌の発行	通年	—	1,210	1,210	市補助金 1,210
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。						
91	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施する。						
92	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施する。						
93	出版物等の販売	通年	—	255	255	市補助金 41 刊行物販売 214
小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
94	調査と表明 (1)R&D	通年	メディアテーク	18,120	18,120	市補助金 7,070 入場料 1,050 助成金 10,000
<p>国内外で活躍するアーティスト(芸術家)や地域の市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題をリサーチ(調査)し、その成果を展覧会などによって発表(表明)することで、再び地域へ還元していく事業。</p> <p>①展覧会「写真家・畠山直哉の芸術論」(仮称):写真家畠山直哉氏とともに、「風景」をキーワードに、「自身の写真を含むアート作品(絵画、彫刻、映像含む)」を調査し、せんだいメディアテークギャラリーに展示する。国際的に活躍する写真家として、さらに震災の経験を通じて深めてきた写真の表現や芸術についての考えを、畠山氏自身の「芸術論」として多様な作品を集めた展覧会とする。</p> <p>②アーティストリサーチ:アーティストを招聘し、公募型のアートワークショップを行うなど、地域に滞在しながら、その地の歴史や社会的課題を調査研究し、成果を発表する。「アーカイブ」と同時に「リサーチ」を文化形成の要件と位置づけ、アーティストによっては、単年度ではなく数年をかけて粘り強くテーマを掘りさげ、その成果を展覧会として表現するまでを一連の事業とする。調査を、専門家による非公開の準備作業とするのではなく、地域の人材との交流やトークイベント、ワークショップなどによって調査の過程そのものを積極的に公開していくなかで、地域の交流事業の手法を新たに開発していく。</p>						
95	調査と表明 (2)R&D	通年	メディアテーク	4,579	4,579	市補助金 1,579 助成金 3,000
<p>市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意する。</p> <p>①スタジオ情報発信:「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性していくことを目指す。また、年毎に設定するテーマに基づき仙台/東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフィユ」を発行する。あわせて、スタジオ協働事業や地域文化アーカイブなどの事業をフリーペーパーやラウンジ展示を通じ、広く発信する。</p> <p>②地域文化アーカイブ:市民の自発的な地域文化財のデジタル化、保存、活用を促す取り組み。成果物は、メディアテークに保存され、ライブラリーへの配架、ウェブサイト等での発信など、広く市民に活用される財となる。また、これらの財をもととした催事を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。これらの取り組みは、国内に例のない地域文化にまつわる映像の蓄積=デジタル・アーカイブを形成し、将来におけるの財産となるよう構築される。</p>						
96	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	5,600	5,600	市補助金 4,900 刊行物等販売 500 助成金 200
<p>各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。</p> <p>①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民協働でおこなう。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組み。</p> <p>②館長発信事業:発信力ある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトーク等の開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。その際、館長の動向を伝える情報発信などもおこない、より広い理解へと努める。</p> <p>③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのフェスティバルを開催、さまざまな活動団体を顕在化するとともにより広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。</p> <p>また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んでいく。</p>						
97	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	30,000	30,000	市補助金 30,000
<p>優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。今年度は3か年スパン第1期の1年目として、アーティスト・イン・レジデンスや地域における拠点づくり、公開ミーティングなどの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。</p>						

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

98	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	65,933	65,933	市指定管理料 65,933
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。					
99	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	394	394	市指定管理料 394
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。					

①特別展・企画展及び関連事業

100	特別展「仙台・昔と今の暮らし」及び関連事業	11/19～4/16	歴史民俗資料館	1,975	1,975	市指定管理料 1,975
	高度経済成長時代を迎える以前の暮らしの様子を「衣」「食」「住」にわけて、現代の暮らしと対比させながら紹介しつつ、新しい道具の登場によって変わった人々の生活について考える。展示内容は「昔の暮らし」を学ぶ小学校3年生の社会科の内容を意識したものとし、さらなる学校利用の促進をはかり、小学生の父母、祖父母がかつての暮らしを思い返すきっかけとなるように努める。					
101	企画展「仙台の祭りと年中行事」及び関連事業	7/2～11/6	歴史民俗資料館	1,516	1,516	市指定管理料 1,516
	正月と七夕・盆などの年中行事や、神像、御札、釜神など家で祀る神々、また農耕儀礼における魔除け、虫除け、託宣の行事、さらには都市の祭礼と芸能などを通して、仙台地方の祭りや年中行事の移り変わりについて、庶民の祈りと暮らしの視点から考える。					
102	企画展「水と人の暮らし」及び関連事業	4/25～6/14	歴史民俗資料館	258	258	市指定管理料 258
	日本人の暮らしの中のあらゆる場面で欠かせない「水」。田んぼに水を引き込むジャバラや、水力で動く水車、井戸端で使ったせんたく桶や米洗いざるなど多岐にわたる「水」にまつわる様々な生活道具を展示紹介する。					
103	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	111	111	市指定管理料 111
	<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。</p> <p>②子ども講座(7月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/8までの8日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/15):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>					
104	資料館だより等の発行	通年	歴史民俗資料館	181	181	市指定管理料 181
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学学習に資する。					
105	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,983	1,983	市指定管理料 1,983
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。					
106	調査報告書の発行	通年	歴史民俗資料館	797	797	市指定管理料 797
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。					
107	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。					

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

108	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	79,894	79,894	市指定管理料 79,894
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。					
109	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,859	13,859	市指定管理料13,859
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行う。 富沢遺跡保存館開館20周年・縄文の森広場開館10周年記念事業として、当館と縄文の森広場が連携して「(仮称)氷河期の森・縄文の森 観察会」を実施する。					
①特別展・企画展						
110	特別企画展「先史時代の精神文化」(仮)	7/15～9/22	富沢遺跡保存館	2,198	2,198	市指定管理料 2,198
	開館20周年記念事業として先史時代の精神文化を題材として展示を行う。先史時代の人々にとって、自然は生活のすべての場面に多くの影響を及ぼすものであり、自然環境・自然現象に対する祈りや畏れは残された遺跡や遺物に表現されている。 当企画展では、東北地方や関東地方の遺跡を中心として先史時代の精神文化に関わる遺構や遺物などの研究成果を紹介する。					
111	企画展「仙台の遺跡⑤ 地下鉄沿線の遺跡」	4/15～6/19	富沢遺跡保存館	61	61	市指定管理料 61
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。当企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は地下鉄東西線開業を記念して、東西線・南北線建設に関連する遺跡を取り上げ、発掘調査で出土した資料とともに紹介する。					
112	企画展「東北からアジア／世界」(仮)	10/14～12/18	富沢遺跡保存館	102	102	市指定管理料 102
	東北大学考古学研究室や東北大学総合学術博物館と協働して、仙台市内も含めた東北地方の後期旧石器時代と同時期の韓国の遺跡や文化について資料やパネルを展示しながら市民の理解を深める。					
113	企画展「地底の森ミュージアム2016」・「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2016」作品展	1/17～3/13	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等を紹介するとともに、フォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2016の作品展の展示を行う。					
114	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	2,039	2,039	市指定管理料 2,039
	<p>①考古学講座(2/18・19、3/4):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。第1回目は開館20周年・10周年記念事業として2/18・19に縄文の森広場と連携して実施する。第2回は当館のみで実施する。いずれも一般市民を対象として開催する。</p> <p>②体験学習(通年):石器づくりや石器の使用体験を通して古代人の技術を学ぶ。ゴールデンウィークや特別企画展期間中、小中学校の秋休み期間中には手づくり工房体験学習として石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施する。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):当館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会をする。原則として毎月2回日曜日に開催する。</p> <p>④地底の森フェスタ2016(10/10):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施する。</p> <p>⑤利用学習事業(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習を行う。実施後、実践集録を作成・Web公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。</p> <p>⑥市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による15名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設け、その成果を活動報告書にまとめる。</p> <p>⑦ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。</p> <p>⑧地底の森ミュージアム友の会活動の支援(通年):博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援する。</p> <p>⑨地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。</p>					
115	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	190	190	市指定管理料 190
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。					
116	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	1,401	1,401	市指定管理料 1,401
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。					

117	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。						
118	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	345	345	市指定管理料 345
保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。						
119	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	188	188	市指定管理料 188
平成29年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。						
②地域との連携事業						
120	運営懇談会	7月、2月	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るため当館の活動を紹介したり、当館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行う機会として、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席いただき懇談会を開催する。また、学校や地域との連携事業を模索する場とする。						

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

121	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	41,077	41,077	市指定管理料 4,1077
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。						
122	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,092	16,092	市指定管理料 16,092
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。						
123	企画展「縄文人の暮らし」	通年	縄文の森広場	35	35	市指定管理料 35
仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、最新の成果を含めて紹介する。3か月毎に主たる紹介遺跡を変えて企画展示を行う。以下の内容を予定。 ①(仮称)「縄文人の精神生活－縄文人と墓」4/22～6/26 ②(仮称)「縄文人の精神生活－縄文人の心の道具」7/22～9/25 ③(仮称)「縄文人の精神生活－土偶の世界」10/21～12/18 ④(仮称)「縄文人の暮らし－祭りと暮らし」1/20～3/20						
124	縄文まつり・縄文コンサート	5/5、7/31、 11/11・12、 2/4・11	縄文の森広場	938	938	市指定管理料 938
季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主体とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地域の団体などによる演奏を主体とした「縄文コンサート」として実施する。						
125	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	2,177	2,177	市指定管理料 2,177
①団体予約: 子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験: 来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座: 「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 ④特別イベント: 春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。						
126	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	275	275	市指定管理料 275
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。						
127	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	654	654	市指定管理料 654
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100名対象。以下の内容を予定。 ①(仮称)「縄文人の資源利用」(12/18) ②(仮称)「縄文人の精神世界」(1/15) ③地底の森ミュージアム開館20周年・縄文の森広場10周年記念シンポジウム (仮称)「守り伝えた20・10年-富沢遺跡・山田上ノ台遺跡」(2/18・19)						

①学校との連携事業

128	利用学習事業	通年	縄文の森広場	3,187	3,187	市指定管理料 3,187
小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行う。学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。						

129	学校教育との連携	8月、10月～12月	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
<p>学校教育との連携を促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会を実施。10～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。</p>						

②地域との連携事業

130	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
<p>縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。</p>						
131	縄文の森広場縄文畑の活用	通年	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
<p>縄文畑に展示の一環として育てているソバ・アワ・キビ・ヒエの播種から調理までを体験するなど、子どもたちの活動としてその利活用を図る。また、縄文時代に関する生活体験などを行う。</p>						

③調査研究事業

132	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
<p>各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。</p>						
133	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。</p>						
134	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。</p>						
135	平成29年度ミニ企画展「(仮称)縄文人のくらし」資料調査	通年	縄文の森広場	108	108	市指定管理料 108
<p>平成29年度に予定している、縄文人のくらしをテーマとした企画展の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。</p>						
136	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。</p>						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

137	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	180,027	180,027	市指定管理料180,027
<p>文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。</p>						
138	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
<p>明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。</p>						

①特別展・企画展

139	特別展「まど・みちおの世界展」	4/23～6/26	仙台文学館	4,379	4,379	市指定管理料 4,379
<p>「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「一ねんせいになったら」などの童謡詩人として知られる、まど・みちおの展示を開催。児童雑誌の編集者として働きながら詩や短歌、そして童謡作品を発表し、やがてフリーとなって創作に専念したその生涯をたどるとともに、戦中の日記や自身の詩・童謡論を書き綴ったノートなどの自筆資料を紹介します。また、フリーとなってから描き始めた絵画作品も展示し、童謡・詩・絵それぞれの表現から、まど・みちおの作品世界を味わえる内容とする。また、仙台の文学者との交友も紹介する。</p>						

140	夏休み企画「こども文学館えほんのひろば」	7/15～8/28	仙台文学館	2,675	2,675	市指定管理料2,675
『わたしのワンピース』や『はけたよはけたよ』など、長年にわたり、子どもたちに愛される絵本を生み出している絵本作家・西巻茅子の原画展を開催。のびのびとした線と明るい色調によって描かれた絵本は、子どもたちの絶大な支持を得て、ロングセラーとなっており、親子二代にわたって読み継がれる本となっている。展示ではこれら絵本の原画と、子どもたちの感性に響く作品世界を紹介。会期中には作家によるギャラリートークや、絵本作品にちなんだワークショップも開催し、絵本を愛するすべての大人と子どもに向けた企画とする。						
141	特別展「猫と文学(仮称)」	9/10～11/6	仙台文学館	2,580	2,580	市指定管理料2,580
人間と深いかわりを持つ「猫」という生き物に焦点を当て、夏目漱石を起点に明治から近・現代までの作家たちによる猫を描いたエッセイ・小説・童話を紹介。作家ならではの筆力によって描かれる、猫と人間の深く味わいのある関わりを紹介する。また、写真家・岩谷光昭が宮城県石巻市田代島で撮影した猫の写真なども紹介し、新たな客層の開拓を図る。参加型のイベントも実施検討している。						
142	企画展「井上ひさし資料特集展vol.6」	12/3～4/9	仙台文学館	2,547	2,547	市指定管理料 2,547
2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示する。膨大な創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどる。また川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介する。						
143	新春口ビ一展「100万人の年賀状展」	1/11～2/12	仙台文学館	280	280	市指定管理料 280
文学館あての年賀状を広く一般から募集する。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。						
144	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	4,405	4,405	市指定管理料 4,405
宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。						
145	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,465	1,465	市指定管理料1,465
平成28年春の特別展の準備を進める。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介していく。						

②その他

146	子育て世代の来館支援事業	通年	仙台文学館	850	850	市指定管理料850
仙台文学館の設置目的である「文学に関する知識の普及活動を行うことにより、豊かな地域文化の発展に資する」取り組みとして、これまで焦点を当てていなかった「親と子」に焦点を絞ったブックガイドの作成を行う。所蔵作品を中心に、子どもと共に楽しめる郷土ゆかりの作家・作品の紹介や、子どもと向き合う親のための作品等を紹介し、館内に配置を行うほか、子育て世代を対象としたワークショップなどを開催する。また授乳スペースの整備やベビーカーの追加などを行い、子育て世代の来館を促す。						
147	映像リニューアル事業 (宮城の文学者紹介映像の制作)	通年	仙台文学館	2,150	2,150	市指定管理料2,150
現在館内で放映している映像資料を、近年活躍する地域ゆかりの文学者の情報などを反映させたものにするのと同時に、作品朗読なども取り入れた、若い世代が読書に親しむ動機づけとなるような内容とし、次世代の来館者を育てる。						

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				備考

(単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

148	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	352,773	352,773	市指定管理料 352,773
平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その5年目となる当年度において次のとおり施設運営を行う。 (1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化する。 (2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指す。 (3)施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化する。 (4)市民の文化活動の拠点施設であることをさらに認識し、施設の活性化及び利用促進につながる施設紹介事業をはじめとした各種事業を行う。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して行う。 (6)震災や外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制を構築する。また、環境に配慮した各種施策に努める。 (7)大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともに行う。 (8)今年度開催の国際音楽コンクールの運営サポートを行う。						
						収益事業を含む

(2) 仙台市泉文化創造センター管理運営事業

149	仙台市泉文化創造センター (イズミティ21)管理運営	通年	イズミティ21	130,729	130,729	市指定管理料 130,729
<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の2年目において、次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1) 市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指していく。</p> <p>(2) 施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。</p> <p>(3) 適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なっていく。</p> <p>(4) 施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取り組みを引き続き推進していく。</p> <p>(5) 施設を活性化させる事業として、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いずみ寄席を行う。</p>						収益事業を含む

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

150	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	592,687	592,687	市指定管理料592,687
<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特徴を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画保全の実施に向けた検討を行っていく。</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援も行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。</p> <p>事業としては、震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進める。</p> <p>また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り、次世代の育成に取り組む。</p>						収益事業を含む
151	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	10,233	10,233	市指定管理料 10,233
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリー、における映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。</p> <p>また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。</p>						